第68号
昭和40年5月10日
発行……吉原市役所
吉原市今泉43の1(電②3111)
編集……市長公室

広報 よしわら

市民の動き
(3月31日現在)
男……45,081
女……44,198
計……89,279
世帯数…19,863

新しい都市づくりは進む

防災建築街区

ことしは第五街区など 元眺峰館(本町三丁目)も姿消す

文華堂一帯

いままで、とかく宿場町的といわれた吉原市の中心街も、昭和三十五年に始められた防火建築帯造成事業が、三十六年に防災建築街区造成事業となり、本町一丁目から四丁目までの延長四九〇㍍、延面積二八七三〇㎡が国の防災建築街区の指定をうけるなど、着々近代的な「町なみ」に変つてきています。

このような新しいまちづくりの基礎となる防災建築街区の造成は、日常生活の大敵、地震や火事などの災害を防ぎ、あわせて土地の合理的な利用、環境の整備改善をはかるためにおこなわれる一石二鳥の近代的好事業です。

昭和三十五年におこなわれた工事は、本一ビル、植松ビル、星一ビルで、延面積五六六〇㎡を工費一億六千六百十七万円をもつてつくられました。

昭和三十六年には、第一街区の糸内田ビル、第二街区の新本一ビルを工費八千六百八十六万円をもつて面積二八〇四㎡がつくられました。

昭和三十七年は、和田栗田ビル、窪田小倉ビル、飯川ビルの延面積一二八八㎡が工費三億二百九十五万円をかけてつくられました。

昭和三十八年には、第二A街区の名店ビル、第三A街区の中央ビルが、工費一億四千七百三十三万円をもつて、延面積四〇七八㎡にわたり工事がおこなわれ、さらにさくねんは、第四街区と第七街区の新生ビルおよび第九街区のオナガビルなど延面積四二一〇㎡、工費一億四千七百九十万円をもつておこなわれました。

ことしおこなわれる工事区は、第五街区と第八街区および第九街区の一部で、延面積六一三二㎡に、工費二億四千五百三十九万円をかけてつくられます。

今後の計画は、四十一年度に第三A街区の一部、第七街区の一部、第十街区、第十一街区にわたり工事がおこなわれ、四十二年度には第六街区と第十二街区の工事がおこなわれるなど、吉原市の防災建築街区造成事業は、全国でも有数の実績をあげています。

防災建築街区造成に功績のあつた不燃化建築促進会長植松豊作さんは「燃えない、美しいまちづくりは、わたしの長年の夢でした。こんごも新しいまちづくりに努力していきたい」―これに答えるかのように、市都市計画課では、本町地区の工事が終りしだい東本通り地区の工事を行なう計画をたてています。

"広がる"街路 ビル建設に併行

この事業と併行しておこなつている、日吉新橋線の都市計画街路改良事業は現在幅員七㍍の街路を一五㍍(歩道が六㍍道路が九㍍)に拡張する工事で、交通緩和と商店街の不燃化高層化をはかり、「立体的なまちづくり」を目指すもので、災害防止になによりも心強いものがあります。

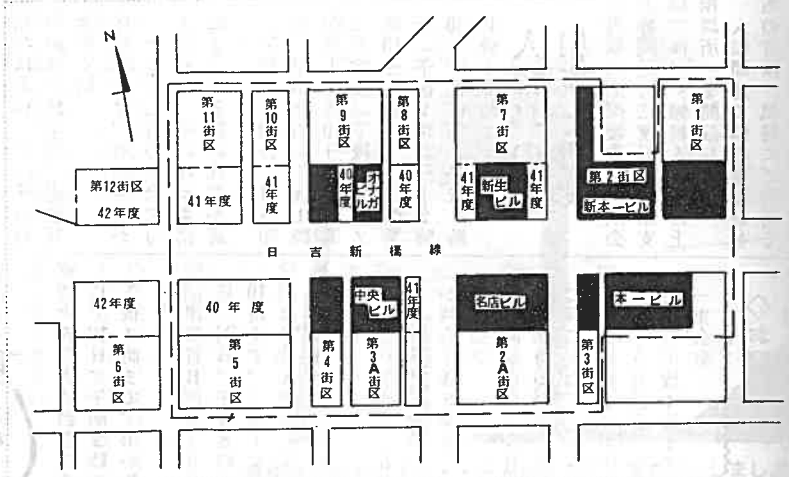
ちなみに、吉原市の中心街に発生した災害についてみてみますと、江戸時代後期の文化二年(一八〇五年)に現在の静岡銀行付近から火事が発生し、おりからの西の風にあおられ二〇八戸が全焼しました。それから約五〇年後の嘉永四年(一八五一年)には東本町に火事が発生し、寺町(現在の東本通り)までの密集地帯を全焼した記録があります。

このように、吉原市の中心街は、昭和三十四年から始めた下水道事業、防災建築街区造成事業や街路改良事業などの近代都市づくりにより、昔のおもかげを一変しようとしています。

※防災建築街区は、十二街区にわけられ、第一街区は本町一の糸内田ビルから東映まで。第二街区は新本一ビル。第三街区は植松電機製作所から栗田ビルまで。第二A街区は名店ビル。第三A街区は中央ビル。第四街区はリツカーミシンから水野カバン店まで。第五街区は市川酒店から丸一食堂まで。第六街区は静岡銀行から星一ビルまで。第七街区は佐野糸屋からトモエガラス店まで。第八街区は大井カメラ店から村松新聞店まで。第九街区は学進堂から中村商店まで。第十街区は太田時計店から長谷川家具店まで。第十一街区は長谷川家具店から内藤金物店まで第十二街区は池田カメラ店から池尾菓子店まで。

立ち並ぶビルと近々取りこわされる元眺峰館(エンピツ形の建物)

防災建築街区案内図



搬入は6月12日

吉原市書道展開かる

第四回吉原市書道展は、七月二日から六日までの五日間、市民会館で行なわれることになりました。

書道展は、市民文化の向上、発展を目的に開かれるもので、ことしの一般の部の公募規定は次のとおりです。

◇会期は
昭和四十年七月二日から六日まで、毎日午前九時から午後六時まで。ただし最終日は午後四時まで

◇会場は
吉原市民会館

◇応募資格は
吉原市内に住所または勤務所があるひと。あるいは、これに準ずると認められたひとで満十五才以上のひと

◇種別は
漢字、かな、近代詩文、小字数、ペン字の五種類で、字句、書体は自由です

◇体裁は
作品は表装することとし条副、枠張、屏風など自由。ただし、ペン字のばあいは表装または台紙を添付する

◇寸法は
全紙以内、ただし対副のばあいは半折以下、ペン字作品は半紙大以上です

◇出品制限
制限はありません

◇出品料は
不要です

◇出品票は
作品には必ず市教育委員会発行の出品票を添付する。出品票は教育委員会、市役所市長公室、各支所に用意してあります

◇搬入は
昭和四十年六月十二日午前八時から午後七時まで市体育館で受け付けます
郵送によるものは受け付けません

◇搬出は
昭和四十年七月六日午後四時から六時まで

◇褒賞は
入選作品のうち特に優秀な作品に対して市長賞、議長賞、教育長賞、教育委員長賞、努力賞、奨励賞がおくられます

◇成績発表は
"広報よしわら"またはその他の印刷物で行ないます

※書道展のお問い合わせは教育委員会社教育課へ

家庭メモ

(衣)
冬物の整理はおすみでしょうか。オーバーや冬物洋服類はぜひドライ・クリーニングに出しておきたいものです。

和服類でも絹物のあわせをドライ・クリーニングにだせるこのごろですが、あまり何年も仕立てがえをせずに着ていると、いたんで縫いなおしがきかなくなります。いまのうち洗い張りをしておきましょう。

五月に入ると急に洗たくものの量がふえるのも主婦の苦労のたねですが、ことにはだ着のせんたくで注意したいことは、すすぎを十分にできれば最後はお湯ですすぎ天日で干しあげることがたいせつです。

(食)
農家は農繁期にはいりますが、保存のきく食品を作つておくとたいへん便利です。

酢魚、焼肉や干魚、ツクダニといつた食品を自家製の野菜、卵などと取り合わせて一週間分の献立表を作つておきます。

五月においしい食物は、魚ではかつお、アサリやハマグリも季節の味覚です。野菜では新たまねぎがたくさん出回ります。新たまねぎは、やわらかさを生かして、生食をおすすめします。水つぽくて甘味もあり、ソースかマヨネーズをつけて食べると、スタミナがつくといわれます。

(住)
そろそろ雨期の準備にとりかかりましょう。五月も下旬になると、つゆのはしりの雨がやつてきます。家の回りの排水が不充分だといつまでもじめじめします。雨どいの修理とか、屋根の手入れはぜひこの五月中にすませておいてください。長雨になりますと、せんたく物の干し場に困るのが主婦です。ひさしのき下とか、雨のかからない場所を利用して、物干し場を工夫しておきましょう。じめじめした雨どきで、特に気をつけなければならないのが台所です。雨の降つていない時に窓や戸棚を開けて空気の流通をはかりましょう